



1 鮮やかな衣装をまとって参列した新成人 2 誓いの言葉を述べる西條洋喜さん(左)と小竹美希さん(右) 3 市長から記念品を受け取る高橋大和さん=中田町浅部= 4 昨年の成人式実行委員がスタッフとしてお手伝い 5 式典の準備、運営に携わった実行委員の皆さん 6 司会進行は、本市津山町出身のアナウンサー、佐々木真奈美さん 7 佐沼小合唱隊が市民歌を斉唱 8 登米高生徒が、ボランティアで式典をお手伝い

皆さんへの感謝の気持ちをお忘れず、登米市を盛り上げ、社会に貢献していくことを誓います」と力強く誓いの言葉を述べ、決意を新たにしました。

大人としての自覚 気持ち新たに

冠婚葬祭の「冠」は成人式を意味します。奈良時代以降、12〜16歳の男子が成人としての認められる儀式「元服」に由来し、冠を頂く(社会的な役割や参政権を得る)の意味を持ちます。女子は同じ年代で「裳着」や「結髪」と呼ばれる儀式を終えてから、成人と認められていました。

現在の成人式の形態は、終戦間もない1946(昭和21)年、埼玉県蕨町(現蕨市)で開かれた「青年祭」がその始まりといわれています。敗戦のショックから立ち直り、次代を担う青年に明るい希望を持たせ、励ますために企画されました。

成人式は、成人を迎えた若者を祝い、励ますものであるとともに、大人になったことを自覚し、気持ちを新たにすることも含まれます。

式典に参加した新成人の表情は、笑顔の中にも大人の自覚が漂っていました。

Face to Face — 平成29年成人式 —

フェイス トウ フェイス

成人を迎えた若者を祝い励ます成人式。そこには「大人になったことを自覚し、気持ちを新たに」というもう一つの趣旨があります。

1月8日、新成人たちは大人としての第一歩を踏み出しました。

新成人が生まれた1996年

- 流行語
「自分で自分をほめたい」(有森裕子)、「メークドラマ」(長嶋茂雄)
- 主な出来事
・携帯電話・PHSの契約者数が急増する。
・「Yahoo! JAPAN」がサービス提供を開始。
・「らい予防法の廃止に関する法

- 律」が施行。
・任天堂がNINTENDO64を発売。
・野茂英雄が、大リーグで日本人初となるノーヒットノーランを達成。
・バンダイが携帯ゲーム機「たまごっち」を発売。
・コギャルブームに火が付く。

20歳になるとできること

- ① 刑事裁判の裁判員に選ばれる可能性がある
- ② 飲酒・喫煙ができる
- ③ 競馬・競輪など公営競技の投票券が購入できる
- ④ 親の同意なしで、ローンや賃貸の契約ができる
- ⑤ 国民年金への加入義務が発生
- ⑥ 事件を起こすと実名報道される
- ⑦ 親の同意なく結婚できる
- ⑧ 養子を迎えることができる
- ⑨ 10年有効なパスポートを申請できる

新成人872人が大人の仲間入り

1月とは思えない暖かい陽ざしが降り注ぎ、二十歳の門出を祝うかのように広がった青空。「平成29年成人式」は1月8日、登米総合体育館で開かれ、出席した新成人719人(男369人、女350人)が大人への第一歩を踏み出しました。

今年の新成人は872人で昨年より42人増加しています。

正午過ぎ、会場にはスーツやほかま姿の男性や振袖で着飾った女性が次々に集合。思い出話や近況報告したり、互いを撮影しあったりと再会を喜びました。

午後1時から開かれた式典では布施孝尚市長が「夢や志を持ち、失敗を恐れず、何事にも臆さず、若さあふれる熱気とパワーで、ご自身の決断した『道』を歩んでください」と式辞を述べました。新成人を代表して西條洋喜さん、豊里町上町と小竹美希さん、米山町十日町が「大人としての自覚を持ち、自分たちの夢や目標に向かって、日々努力していきます。また、これまで温かく見守っていただいた